

2 男女別人口

(1) 人口性比

～ 本市の性比は 87.2 ～

人口を男女別にみると、男性は 165,387 人、女性は 189,617 人で男性が女性に比べ 24,230 人少なく、人口性比（女性 100 人に対する男性の数）は 87.2 となっている。人口性比の推移をみてみると、昭和 55 年に対前回比で増加したが、それ以外は、徐々に低下しており、平成 12 年で初めて、90.0 を割り込んだ。（表 2 - 1）

一般的に、性比が高い水準にある市町村は、第二次産業、いわゆる製造業等の集積した工業都市で製造業等就業者の多い都市や、自衛隊の駐留する都市で多くみられ、一方性比が低い市町村は、平地農村や観光保養都市に多くみられるといわれている。

本市の場合、自衛隊が駐留し、家具・装備品等の製造業が多くみられるにもかかわらず、性比が低下しているのは、産業構造の転換が進行していることと同時に、雇用情勢の変化の一端を表しているといえる。

人口性比を年齢 5 歳階級別にみると、19 歳以下の年齢階級ではすべての階級で 100 以上であるが、20 歳以上ではいずれも 100 を割っている。その中で、35 歳以上の階級でいずれも 90 を割り込んでいる。これは、上述のとおり、昨今の景気状況・経済状況の影響による雇用情勢の変化が大きな要因と考えられる。（図 2 - 1）

表 2 - 1 男女別人口の推移

単位：人，%

年次	人 口		人口性比(女 100人につき 男の指数)
	男	女	
昭和 45 年 (1970)	145,258	151,931	95.6
50 (1975)	155,555	164,971	94.3
55 (1980)	171,435	181,184	94.6
60 (1985)	175,268	188,363	93.0
平成 2 年 (1990)	171,182	187,889	91.1
7 (1995)	170,759	189,809	90.0
12 (2000)	169,465	190,071	89.2
17 (2005)	165,387	189,617	87.2

